

結核臨床研修会報告

医療社会事業専門員 上田 竜也

当院では平成13年度から年1回石川県の各地で、結核医療における地域の医療機関相互の連携強化を図り、結核医療の向上に努めることを目的として結核臨床研修会を開催しています。平成27年4月に、当院が石川県における結核診療の中核病院に指定されたことに伴い、本研修会は年2回にグレードアップしました。

第1回は平成27年11月8日に羽咋市のコスモアイル羽咋にて、第2回は平成28年2月21日に小松市民病院の研修室をお借りして開催しました。

第1回では能登中部保険福祉センター所長 南陸男先生を、第2回では南加賀保健福祉センター所長 沼田直子先生、山崎景子保健師をお招きし、各保健所管内での結核患者の発生状況についてご講演いただきました。能登中部では新規登録患者の中では高齢者と若年者の外国籍者が多いため外国籍者を多く雇用する企業での健康教室を積極的に実施していること、南加賀では抗結核薬の効きにくい薬剤耐性菌患者が毎年発生していること、薬剤耐性菌患者のうち20%程度を外国籍者が占めていることなど述べられました。

当院からは堂下隆内科医師から「結核診断のポイントについて」と題して結核菌関連検査から実際の症例に基づく診断のコツの説明がありました。土島秀次外科医長から「結核症例の実際について」と題して5つの症例提示を行いました。また、「良質な喀痰の採取法とその評価について」では、多和田行男臨床検査技師長が、上手な痰の採取方法と喀痰の品質評価の重要性について解説しました。「結核発症時の施設内対応と当院における看護について」では、石倉礼子結核看護院内認定看護師から感染防止対策、抗結核薬について、DOTSカンファレンスと退院後の対応、精神的援助にいたる流れの具体的な説明がありました。最後の「施設内での結核患者発症時の接触者調査について」では、中川かつ枝感染管理認定看護師が、結核患者の感染性の有無とその強さを判断し接触者健診の対象者を選択していくことをわかりやすく説明しました。

研修後のアンケートは今年も好評で、「多職種からの講義が聞いて勉強になった」、「症例提示でCT等の画像を見ることができ理解が深まった」などの感想をいただきました。また今後の研修内容の希望では「診療所や医院でどこまで検査をして結核専門病院へ紹介したらよいか教えてほしい」など、連携を取っていくうえで重要なご意見をいただきました。

平成28年度も年2回の結核臨床研修会を開催予定です、今後も中核病院として様々な情報を発信していきたいと思っております。

